

伝え合う力を向上めざす授業づくり

— 「書くこと」を通して —

学籍番号 189973

氏名 田中 未悠

主指導教員 糸井川 孝之

1. 実践研究の背景

新学習指導要領(平成 29 年告示)における国語科の教科目標は「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と示されている。その中の「(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」に着目をして研究を行った。

「伝え合う力」という文言が取り入れられたのは、平成 10 年度に告示・改訂された学習指導要領の目標からである。従来の「表現」の領域の枠をさらに拡充し、国語科教育の中で「生きる力」の提唱をしているものと考えられる。つまり、人間関係が希薄になりつつある社会背景の中で、自分の思いを相手に理解してもらえるように表現する力は、今後の子どもたちが社会生活を営んでいく中で、極めて大切な言語能力だと考えられる。その社会生活に対応する能力を学校教育の基盤である義務教育段階において、確実に定着させることが必要である。

このような背景を踏まえ、「自分の考え」を形にすることからはじめ、「伝え合う活動」を通して「自分の考え」を再整理する学習指導のなかで、「伝え合う力」を育成することができると仮定した。以上より、本研究では「伝え合う力」を向上させるための授業づくりをめざした。

2. 実践研究

2.1 授業実践 I

授業実践 I では、中学 1 年生を対象に「伝え合う力」の育成を目的として、「伝え合う活動」を取り入れた学習指導(単元:「玄関扉」・「三角ロジックを使って論理的思考力を鍛えよう」)の工夫と効果の検証・考察を行った。さらに、スキル指導(話し方・聞き方)を取り入れたコミュニケーション活動を授業開始の 5 分間に位置づけ、授業前後には「三角ロジック」を取り入れたパフォーマンス課題を実施した。単元を通して、思考力や想像力を働かせた「自分の考え」の形象化に変化があるのか調査を行った。授業前後のパフォーマンス課題を比較したところ、事後の方が事前よりも評価が高く、「自分の考え」を形にすることができるという実態を把握することができた。しかし、ルーブリックの作成など計画段階による課題が多く見られた。

2.2 授業実践Ⅱ

授業実践Ⅱでは、授業実践Ⅰに引き続き、中学3年生を対象に「伝え合う力」の育成を目的として、学習指導（単元：「短歌」）の工夫と効果の検証を行った。ただし、授業実践Ⅰで出た課題を改善して、より詳細なルーブリックを作成した。そして、授業前後には、スキル（話す・聞く）の実態調査とパフォーマンス課題を実施した。スキル実態調査の内容は、会話文作成課題である。友人と会話している場面を想定して、ある話題を振られた時にどう返事をするのか「動作」と「言葉」に分けて記述してもらった。事前パフォーマンス課題は、崇徳院の歌をもとに情景や意味を想像・思考する。そして、ワークシートを活用して「自分の考え」を形象化するというものである。事後パフォーマンス課題では、「伝え合う活動」として双方向の交流を通して得た考えをもとに「自分の考え」を再整理して、「確かな自分の考え」にするという内容になっている。事後パフォーマンス課題に取り組むにあたって、整理方法を3点（補完・付加・比較）提示した。「伝え合う活動」では、活動に入る前にスキル指導（話し方・聞き方）を実施し、スキルの習得と活用を図った。スキル実態調査の比較の結果、スキル指導した成果が見られた。パフォーマンス課題については、「自分の考え」を形象化することができていたものの、「確かな自分の考え」へと再整理できずに、感想文になっている生徒が見受けられたため、指導に関する課題が残った。

2.3 授業実践Ⅲ

授業実践Ⅲでは、Ⅰ・Ⅱ同様の手続きで授業を設計し、中学1年生を対象に学習指導（単元：「見えないだけ」）の工夫と効果の検証を行った。ただし、授業実践Ⅱに加えて、整理方法を補強と修正の2点に変更し、モデル文を提示した。モデル文を提示したことによって、「確かな自分の考え」へと再整理できた生徒が向上した。また、授業前後に「伝え合う力」の向上に関するアンケートを実施した。自分の考えたことに自信が持てないまま、交流を始めてしまうと積極的に伝え合うことができず、話すよりも他者の考えを聞くことが得意になっていたとアンケート調査から分かった。十分に「自分の考え」を整理する時間を設けたり、ヒントカードの活用やスキル指導をしたりすることによって、聞くだけではなく、自信をもって発言することができたと考えられる。

3. 総合考察

3つの授業実践の結果により、スキル指導を通じた「伝え合う活動」を取り入れた授業は「伝え合う力」の向上に効果的であると考えられる。自分なりの考えを表現するといった学習活動において、ワークシートを使って「自分の考え（思考の形象化）」に着目することは、新学習指導要領（平成29年告示）解説の「伝え合う力」に示されている「適切に表現したりする力を高めること」につながってくる。子どもたちが自分の内面にある考えを表面化できるように工夫したり、「自分の考え」を形象化するために整理する時間を十分に設けたりすることによって、自信をもって「伝え合う活動」に取り組むことができたことが示された。これらの活動が「伝え合う力」の向上につながったと考えられる。

今後は、「伝え合う力」の向上に向けて、学習指導の工夫や実践をさらに蓄積し、学校教育現場におけるより効果的な学習指導を開発していくことが求められる。